

今、プレゼンテーションの能力の重要性が注目されています。オリンピック招致合戦での日本の招致委員会によるプレゼンテーションは「お・も・て・な・し」の言葉とともに記憶に新しいところですし、テレビではさまざまなプレゼンテーションを特集した番組も人気です。書店にも多くの関連の書籍が並び、ビジネスの世界では必須の能力のようです。

相手によりわかりやすく、心に訴えかけることは大切なことだと思います。ただ、それは情報伝達の手段の一つに過ぎません。しかし世間ではプレゼンテーションの技術をあまりにも重視しているように見えます。

時には無理をして自らをアピールしていませんか？ それで疲れを感じてはいませんか？ 相手にその辛さまで伝わってしまっているのかもしれませんがね。

このような状況では、人前に出ることが苦手な方やあがり症の方にとっては非常に辛い時代かもしれません。悩んでしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

『法句經』に次のようなお釈迦さまの言葉があります。

「多く説くからとて、それゆえにかれが賢明なのではない。こころおだやかに、
怨むことなく、恐れることのない人。かれこそ賢者と呼ばれる。」

どんなに多くを説いたからといって、それで優れた者ということではない。心が穏やかで憎しみの心もなく、恐れるものの無い人、そんな人を優れた人とよぶ、という意味でしょうか。

人はさまざま、それぞれ個性があり、得手不得手をもっています。その人なりの表現の方法があります。口に出てくる言葉が全てではありません。心の内側が豊かな、優れた方の人となりは、表に見えなくても、感じる事ができるものです。そのような人の伝えることは、口数少なくても心に響くものです。

プレゼンテーションのマニュアルに従って話すだけでは伝わらないこと、足りないことがあるのではないのでしょうか。聞いている相手に、話す者の人格や生き方までもが、見えることがあるのかもしれませんが。

プレゼンテーションが得意な方も不得意な方も、誠実に伝えようとする真摯な姿勢が大切なのではないのでしょうか？